

IV.患者分析

1. ○○病院外来収益等の推移

<略>

2. ○○病院入院診療収益等の推移

<略>

3. 病棟別入院収益等の推移

<略>

4. 診療行為分析

○○病院の平成20年6月の診療行為と平成19年6月の同床規模の市町村・組合立の医療機関の標準値と比較したものです。

① ○○病院入院患者単価分析

<内科>

内科は20年6月入院患者数721人(1日当たり24.0人、病床占有率13.5%)の診療科です。内科患者の一日あたりの平均単価は34,225円と標準値よりも4,740円高くなっています。診療行為別には入院基本料が3,184円、手術が1,236円などが標準値よりも高くなっています。一方で、処置が718円、投薬が381円、指導管理が377円標準値よりも低くなっています。

<外科>

外科は20年6月入院患者数613人(1日当たり20.4人、病床占有率11.5%)の診療科です。外科患者の一日あたりの平均単価は35,574円と標準値よりも2,106円低くなっています。診療行為別には入院基本料が763円、画像が392円高くなっています。一方で、手術が885円、投薬が638円、指導が505円となっており、標準値よりも低い値となっています。また、6月は消化器内科医が不在の時期でしたので、7月以降に手術件数などが増加していく可能性があります。

<以下略>

入院内科患者1人1日当たり診療収入

単位：円

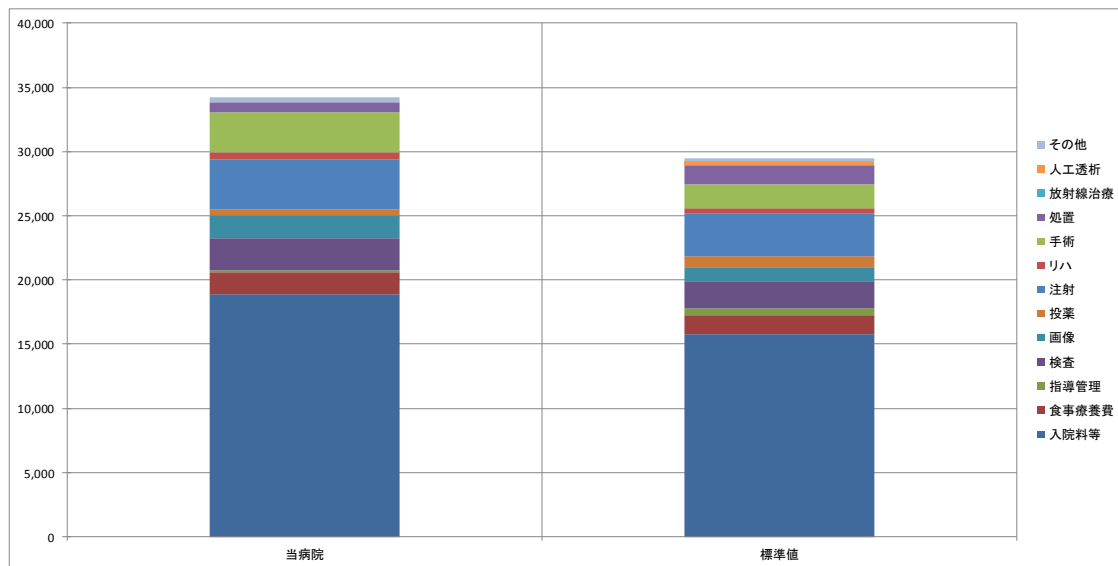
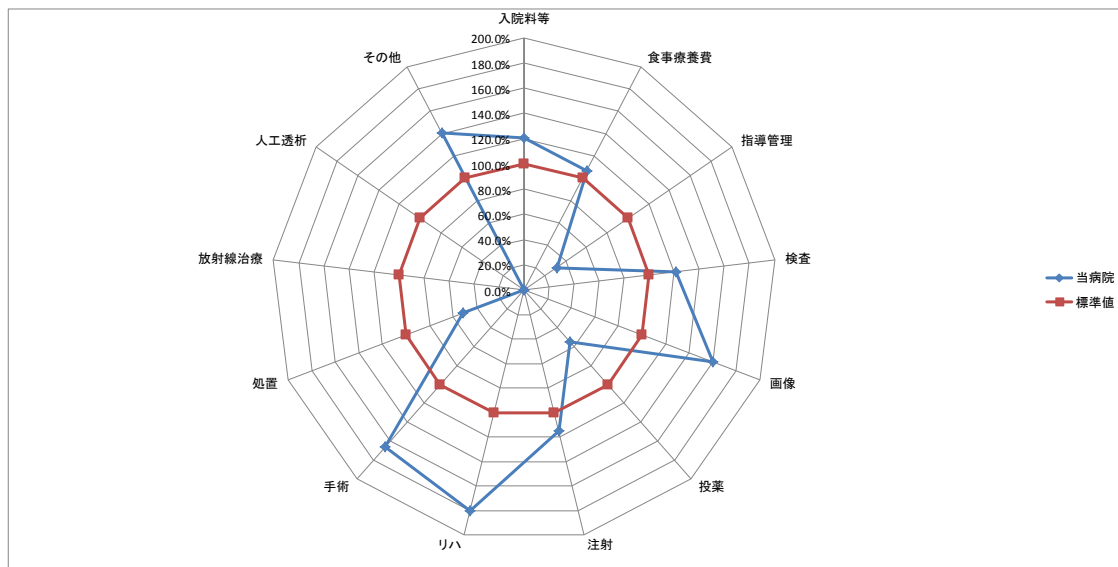
	合計	入院料等	食事療養費	指導管理	検査	画像	投薬	注射	リハ	手術	処置	放射線治療	人工透析	その他
当病院	34,225	18,930	1,649	172	2,511	1,766	473	3,875	599	3,093	779	0	0	378
標準値	29,485	15,746	1,544	549	2,073	1,103	854	3,362	332	1,857	1,497	8	291	269
差額	4,740	3,184	105	-377	438	663	-381	513	267	1,236	-718	-8	-291	109

入院内科診療行為別診療収入指標(標準=100)

	合計	入院料等	食事療養費	指導管理	検査	画像	投薬	注射	リハ	手術	処置	放射線治療	人工透析	その他
当病院	116.1%	120.2%	106.8%	31.4%	121.1%	160.1%	55.4%	115.3%	180.4%	166.6%	52.0%	0.0%	0.0%	140.4%
標準値	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(注)1. 当病院の実績値は、平成19年3月のレセプトデータによる

2. 標準値は、全国の他の公的病院で、200床以上299床



<以下略>

② ○○病院外来患者単価分析

<内科>

内科は、平成20年度6月の外来患者数2,237人(1日あたり97.3人、外来占有率14.8%)の診療を行っています。内科患者の1日当たり単価は7,833円となっており、標準値よりも3,699円低くなっています。しかし、院外処方の影響がある投薬料で1,730円、人工透析で1,752円の併せて3,482円は統計上の差異と考えられますので、実質的には217円低くなっています。診療行為別には、検査料が625円、初診料が252円など標準を上回っています。一方で、在宅医療が625円、手術・処置が217円、注射が212円など標準値よりも低くなっています。

<外科>

外科は、平成20年度6月の外来患者数481人(1日あたり20.9人、外来占有率3.2%)の診療を行っています。外科患者の1日当たり単価は10,775円となっており、標準値よりも367円低くなっています。しかし、院外処方の影響がある投薬料で1,371円、人工透析で320円の併せて1,691円は統計上の差異と考えられますので、実質的には在宅診療が大きく貢献しており1,324円高くなっています。診療行為別には、在宅診療が3,356円、リハビリが170点、画像が81点など高くなっています。一方、注射が1,422円、検査が858円などが低くなっています。

<以下略>

外来内科患者1人1日当たり診療収入

単位: 円

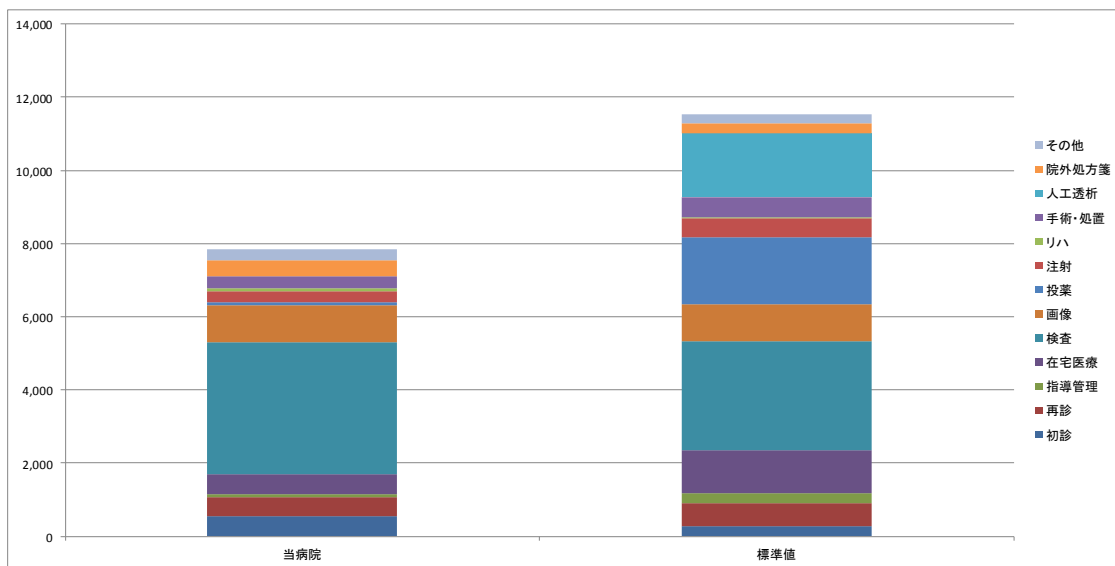
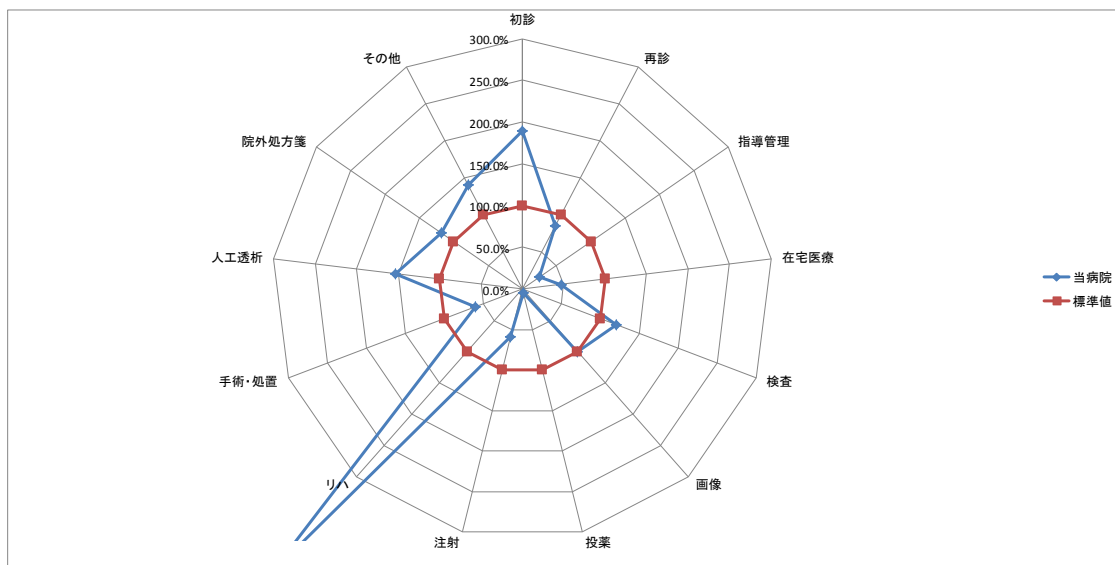
	合計	初診	再診	指導管理	在宅医療	検査	画像	投薬	注射	リハ	手術・処置	人工透析	院外処方箋	その他
当病院	7,833	536	539	64	558	3,603	1,001	96	311	77	325	0	445	278
標準値	11,532	284	623	257	1,200	2,978	1,004	1,826	523	17	542	1,752	291	235
差額	-3,699	252	-84	-193	-642	625	-3	-1,730	-212	60	-217	-1,752	154	43

外来内科診療行為別診療収入指標(標準=100)

	合計	初診	再診	指導管理	在宅医療	検査	画像	投薬	注射	リハ	手術・処置	人工透析	院外処方箋	その他
当病院	68.0%	189.0%	86.0%	25.0%	47.0%	121.0%	100.0%	5.0%	59.0%	454.0%	60.0%	153.0%	118.0%	140.4%
標準値	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(注) 1. 当病院の実績値は、平成20年6月のレセプトデータによる

2. 標準値は、全国の市町村、組合病院で、200床以上299床



<以下略>

5. 入院経路分析

<略>

6. 平均在院日数と診療科別在院日数平均

〇〇病院の20年6月のレセプトから一般病棟入院患者の特徴について記載します。(転棟されている患者は分析には含みません)

表IV—6—1は、6月単月の平均在院日数とレセプトから集計した在院日数平均を表しています。6月1日に退院した患者と6月30日に入院した患者が多い診療科は平均在院日数の計算上は2日となり、在院日数平均では1日となり平均在院日数より在院日数平均が長くなることもあります。また、転棟患者は在院日数の統計から外れますので同様の結果となります。このような事情を考慮しても、平均在院日数と在院日数平均を比較すると長期の入院患者が入院している診療科は平均在院日数よりも在院日数が著しく長くなる傾向を表します。そのような傾向を示している診療科は、内科、泌尿器科、循環器内科となります。これらの診療科には長期の入院患者が入院していることを示しており、病棟を再編する必要があります。

表IV—6—1 診療科別平均在院日数と在院日数平均

単位: 人、日

	内科	小児科	外科	整形外科	産婦人科	眼科	皮膚科	泌尿器科	循環器内科	一般合計
延患者	721	579	613	815	127	93	88	1,413	886	5,335
新入院数	52	106	24	34	16	13	10	78	25	358
退院患者数	38	105	21	33	22	13	8	72	31	343
平均在院日数	16.0	5.5	27.2	24.3	6.7	7.2	9.8	18.8	31.6	15.2
在院日数平均	47.4	5.6	26.7	25.3	6.4	9.0	11.7	41.6	50.8	28.2

表IV—6—2、IV—6—3は、6月のレセプトを入院期間別診療科別に再集計し入院期間ごとの患者数と単価を表したものです。〇〇病院の入院期間ごとの患者構成比は、15日までの患者が31.6%、30日までの患者が27.8%、60日までの患者が21.4%となっており、一般病棟に入院している患者のうち80%以上の患者が60日以内の患者となります。

また、表IV—5—3の入院期間別診療科別患者単価をみると**15日までの患者単価は38,517円、30日までは36,755円、60日までは30,966円、90日までは23,671円**となっており、**3万円台を大きく割り込んでいます。**90日超の患者については単価の高い透析患者の診療を行っている影響から29,946円となっています。

一方で、**部門別の集計より一般病棟の1床あたりの人件費は13,025円、療養病棟の1あたりの人件費は5,145円**となっていますので**60日を超えた患者については状態によっては10対1で看護職員を配置する一般病棟でみる必要があるのか検討する必要があります。**すなわち、医療療養病床を増加し、そこで受け入れていくことが必要です。

表IV—6—2 入院日数別診療科別患者数

通算	内科	小児科	外科	整形外科	産婦人科	眼科	皮膚科	泌尿器科	循環器内科	総計	構成比
15日まで	208	506	90	140	114	55	272	151	1,611	31.6%	
30日まで	226	41	212	293		33		456	1,420	27.8%	
60日まで	140	32	141	123	12	14	13	370	247	21.4%	
90日まで	49		1	83				152	111	7.8%	
90日超	157		60	60				119	190	11.5%	
総計	780	579	504	699	126	102	88	1,369	858	5,105	100.0%

単位：人

表IV—6—3 入院期間別診療科別単価

通算	内科	小児科	外科	整形外科	産婦人科	眼科	皮膚科	泌尿器科	循環器内科	総計
15日まで	42,488	36,318	35,833	47,302	27,779	47,533	31,097	42,514	35,182	346,046
30日まで	30,167	21,676	41,714	39,885		41,612		34,270	43,743	253,067
60日まで	32,119	36,839	28,780	23,127	21,279	32,432	27,763	32,524	32,923	267,786
90日まで	19,312		14,010	17,919				28,435	23,460	103,136
90日超	26,458		26,226	18,469				38,707	32,138	141,998
総計	32,375	35,310	35,147	33,975	27,160	43,545	30,604	35,174	33,928	34,276

単位：円

資料1 61日～90日までの患者リスト

No	性別	年齢	入院期	通算	疾病名1	疾病名2	疾病名3	診療科	医学管理	在宅	投薬	注射	処置	手術	検査	画像	リハ	小計	リハ対象	食事代	合計	単価	
404	2	71	80	61	90	左大腿骨転子部骨折		整形外科			90						756	5,440	39,606	19	46690	442750	17029
456	2	81	90	61	90	右腎盂腎炎	急性腎不全	泌尿器科			1,678	2,601	82		3,366	4,527	2,585	50,809		52902	569992	20035	
381	1	81	90	64	90	上行結腸癌	癌性腹膜炎	内科			224	5,415	353		2,475	2,939		32,806		30980	359940	22399	
402	2	81	90	90	90	左大腿骨転子部骨折	腸胃障害	整形外科			892		8		1,406	7,270	329	21	59100	55280		18413	
475	2	71	80	66	90	慢性腎不全増悪	尿路感染症	泌尿器科		830	1,417	3,229	15,148	5,332	2,270	4,313		57,929		38988	618188	30909	
180	1	51	60	68	90	慢性腎不全	高尿酸血症	腎臓科			1,934	1,993	16,926		3,348	6,139		50,208		24278	526358	40489	
295	1	71	80	69	90	前立腺肥大症	前立腺肥大増悪	泌尿器科		1,005	548	1,128	762	20,986	2,789			52,734		29600	556940	34809	
158	2	71	80	61	90	慢性腎不全	高血圧症	泌尿器科		450	1,050	1,565						31,112		42244	354264	17118	
287	2	61	70	72	90	末梢性肢麻痺	ネフローゼ症候群	泌尿器科		1,520	2,243				2,894	3,068		46,085		57914	518764	17292	
388	1	71	80	73	90	脳卒中	上部消化管出血	外科			7							1,332		690	14010	14010	
497	1	91	73	73	90	腹部大動脈瘤術後	慢性心不全	循環器内科			6,788	3,223	465		4,552	776		55,554		46688	602228	20074	
303	1	61	70	74	90	脳梗塞後遺症	症候性てんかん	循環器内科		1,520	3,962	224			7,383	3,259	17,155	73,253	19	65940	788470	26618	
256	2	61	70	76	90	右大腿骨骨折	腰痛症	整形外科			192		440		360	1,096	6,290	44,153	19	50580	492110	18226	
306	1	61	70	79	90	大動脈弁狭窄症	全身浮腫	循環器内科		1,190	559				2,676	299		32,549		44726	370216	17629	
450	1	71	80	79	90	右肺癌術後	慢性腎不全	泌尿器科			1,559	35,967	9,828	5,389	3,224	2,057		75,844		27142	785582	60429	
537	2	81	90	82	90	肺がん	転移性骨腫瘍	内科		400	2,605				1,899	2,191		46,108		59100	520180	17339	
437	2	71	80	83	90	慢性腎不全増悪	神経性膀胱	泌尿器科				1,718	40		858	388		6,501		2660	67860	33880	
37	1	61	70	85	90	膀胱癌	慢性腎不全	泌尿器科			5,259	7,828	13		1,955	2,461		31,176		21284	333024	33302	
348	2	91	85	85	90	横形肺結核	うつ血性心不全	内科				658	205					984	498		69180	230503	
301	2	71	80	89	90	高血圧症	急性心筋梗塞	循環器内科		50	630							3,350		2964	38464	18232	

資料2 90日超の患者リスト

No	性別	年齢	入院期	通算	疾病名1	疾病名2	疾病名3	診療科	医学管理	在宅	投薬	注射	処置	手術	検査	画像	リハ	小計	リハ対象	食事代	合計	単価	
248	2	61	70	141	90	右脳脊髄液貯留	閉鎖性肺炎	整形外科			2,985				1,083	723		44,545		55280	50710	14,890	
351	2	81	90	91	90	慢性腎不全	慢性心不全	泌尿器科			115	14,268	498		3,437	582		58,550		598500	19,550		
454	1	71	80	95	90	神経性膀胱	膀胱癌	泌尿器科				215			1,532			5,203		2660	55190	27,595	
508	1	61	70	99	90	急性心不全	うつ血性心不全	循環器内科			1,912	2,629	5,918	9,526	4,760	2,452	7,760	74,767		41762	788832	26,294	
321	1	81	90	90	90	肝内胆管癌	閉塞性黄疸	内科		490	1,867	12,349	481	45,174	5,444	2,184		103,564		34502	1070142	39,695	
421	2	91		104	90	腎臓病	慢性腎不全	泌尿器科										6,958		2660	72240	26120	
242	1	71	80	107	90	腸閉塞	汎発性腹膜炎	外科			1,436	17,310	396		1,857	388	1,880	63,017			630170	21,006	
183	1	51	60	116	90	S状結腸癌術後再発	転移性肺がん	内科		400	3,563	6,943	3,283		2,016	1,757		37,837		4680	383050	25,537	
428	1	61	70	119	90	慢性腎不全	慢性呼吸不全	泌尿器科			7,245	2,767	13,891	40	2,647	3,160	1,200	46,000		19782	479782	47978	
252	1	81	90	123	90	脳脊髄液貯留	閉塞性脳神経症	整形外科			52	8,126	110		1,995	1,806		6,535		32940	59320	19,554	
191	1	71	80	131	90	腸癌術後再発	高血圧症	内科			52	31,624			2,029	5,384		70,909		51320	760410	31,684	
389	1	81	90	133	90	胃癌	胃腸腫瘍	外科		400	1,421	14,951	1,985	28,290	3,827	3,714		94,338			943380	31,446	
445	1	71	80	142	90	重症肺炎	呼吸不全	循環器内科			2,103	23,526	31,771		3,794	3,742		113,676		65940	1202700	40,990	
243	1	71	80	143	90	慢性腎不全	慢性呼吸不全	泌尿器科		400	1,203	1,45	300		3,975	3,806	6,580	55,736	14	47970	607430	20,248	
485	2	61	70	148	90	慢性腎不全増悪	慢性腎不全増悪	泌尿器科		380	1,477	7,020	2,830	988	299			21,071		8842	219552	43,810	
474	1	81	90	152	90	麻痺性イレウス	右胸水貯留	泌尿器科			521	1,718	114					8,238		4630	87010	12,430	
41	1	41	50	154	90	膀胱癌	慢性腎不全	泌尿器科		100	1,855	115	22,408	1,183		3,153	388		50,022		15564	515784	32,237
336	2	81	90	155	90	胸前胸骨骨折	左大腿骨骨折	整形外科			5,599	225	34		745	3,310	7,170	54,633		59100	607430	20,248	
309	1	71	80	159	90	うつ血性心不全	慢性腎不全	泌尿器科			58,413	17,538	25,473		10,194	4,781	5,550	170,697		59100	176070	58,689	
395	1	81	90	183	90	脳梗塞後遺症	胃腸運動障害	内科			1,307				718	194		5,253			52530	20,265	
314	1	71	80	194	90	脳梗塞	慢性心不全	循環器内科			1,694				2,964	1,420	6,580	29,908	7	17780	278680	27,868	
449	1	71	80	213	90	慢性腎不全	慢性呼吸不全	泌尿器科			1,276	4,419	27,688	130	824	2,463	235	76,765		59900	823550	27,452	
169	2	51	60	243	90	慢性腎不全増悪	腎臓病	泌尿器科		1,050	1,996	2,556	2,106	1,624	2,124	1,892	4,465	37,707		30772	407842	27,189	
282	1	71	80	265	90	膀胱癌(浸潤性)	尿道狭窄	泌尿器科		305	33,762	16,032	2,436	68,929	3,657	4,270	800	170,421		57820	1762030	58,734	
483	2	81	90	280	90	肥大型心筋症	慢性心不全	循環器内科			3,252				3,551	4,282	3,120	53,955		65224	604774	20,159	
359	2	81	90	288	90	脳梗塞後遺症	老人性認知症	内科					1,307					4,869		46890	48990	24,345	
65	13	28	91	140	90	左大腿骨転子部骨折	慢性腎不全	整形外科		400	7,455	7,557	113		718	194		4,859		83792	745692	24,856	
480	2	71	80	474	90	慢性腎不全増悪	慢性呼吸不全	泌尿器科			5,830	6,635	6,542		3,510	388	2,885	65,540		65940	721340	20,045	
436	1	91	630	90	90	前立腺癌																	

7. 病棟再編性および外来機能の見直しによる採算制について

病棟再編性の目的には、

- 一般病棟の急性期病棟化
- 〇〇地域で不足しているリハビリ病棟への対応
- 一般病棟、療養病棟の稼働率の向上による増収

があげられます。

表IV—7—1は病棟再編成案を表しています。

現在の一般病棟4病棟、療養病棟1病棟(医療療養23床、介護療養17床)から、一般病棟3病棟、回復期リハビリ病棟1病棟、医療療養病棟1病棟への移行を提案いたします。また、医療法上の届出を一般病床164床、療養病床96床とします。

表IV—7—1 病棟再編成案

	病床数	現在の種別	提案種別	医療法上の区分
第4病棟	52	一般	一般	一般
第5病棟	56	一般	一般	一般
第6病棟	56	一般	一般	一般
第7病棟	56	一般	回復期リハ	療養
療養病棟	40	医療23、介護17	医療40	療養
入院合計	260			

表IV—7—2は、レセプトから算出した一般病棟、療養病棟に入院している患者の状態別に分類した患者単価となっています。一般病棟については、1日当たり170人患者が入院していました。病棟再編後の入院病棟としては、一般病棟に残る患者が148人、回復期リハビリ病棟への転棟が可能な患者が15人、単価が低い患者で療養病棟や介護保険施設でも対応可能と考えられる患者が8人入院していたと考えられます。

療養病棟については、一般病棟からの転棟に際して出来高で算定していた部分が残っておりますので医事統計上での病棟単価よりも高い数値となっていますが、リハビリ目的の患者が2人入院していました。

表IV—7—2 現在の患者の属性と患者単価

	延患者数	患者単価	1日当たり人数	再編後の入院先
一般病棟	5,105	34,276	170.2	
一般病棟対象患者	4,431	36,234	147.7	一般病棟
回復期対象	434	23,995	14.5	回復期
単価の低い患者	240	16,722	8.0	療養、退院
療養病棟	682	18,488	22.7	
療養対象患者	622	18,479	20.7	療養
回復期対象	60	18,583	2.0	回復期

表Ⅳ—7—3は病棟再編後の各病棟の患者数および単価を示しており、結果的に病棟再編後の増収額は414百万円と算定できます。仮に、4階、5階、6階の3病棟を一般病棟とすると表Ⅳ—7—2の一般病棟対象患者の受入が可能です。

7階病棟を回復期リハビリ病棟とすると表Ⅳ—7—2で一般病棟に入院していた14.5人、療養病棟に入院していた2人のほかに、34人の患者を外部から獲得することになります。この34人は1章でご説明いたしましたが△△医療圏で脳血管疾患の患者が185人程度発症し入院治療を要していますが、△△医療圏域での受入体制を考慮するとかなりの患者が旭川などへ流出していることが想定できますので、連携により十分に獲得が可能な患者数と考えられます。

陽だまり病棟については、介護保険病棟を廃止し、医療保険病棟への移行ですので十分に患者が見込めると考えられます。ただし、介護老人保健施設●●との連携を密接にする必要があります。

表Ⅳ—7—3 病棟再編後の入院患者と増収額

	病床数	6月の単価(円)	患者数	新単価(円)	増収額(千円)	摘要
第4病棟	52	36,951	46.8	36,951	0	
第5病棟	56	36,951	50.4	36,951	0	
第6病棟	56	36,951	50.4	36,951	0	
一般計	164		147.6		0	
第7病棟	56	23,995	14.5	27,000	15,865	一般病棟から
		18,583	2.0	27,000	6,144	療養病棟から
			33.9	27,000	334,085	外部からの紹介
回復期計	56		50.4		356,094	
療養病棟	40	18,479	20.7	18,479	0	
			17.3	17,021	97,377	新規
		12,440	10.8		-49,038	介護保険分
療養計	40		38.0		48,339	
総合計	260				404,432	

一方で、回復期リハビリ病棟の患者が34人、療養病棟の患者が17人増加しますので各病棟で材料費が5%かかるとして

$$334,085 \text{千円} \times 5\% = 16,704 \text{千円}$$

$$107,479 \text{千円} \times 5\% = 5,374 \text{千円}$$

となりますので増益額は392,456千円となります。

また、半年の実績をみて回復期リハビリ病棟は基準をⅡからⅠにあげられ、重症加算もつきますので

$$50.4 \text{(人)} \times 1450 \text{(円)} \times 365 \text{(日)} = 26,674 \text{千円}$$

が増収になります。

また、脳血管疾患のリハビリ患者に対応するために神経内科医、リハビリスタッフ最低2人の獲得が必要ですので30,000千円程度の人件費の増加が見込まれます。また、リハビリ部門については、回復期リハビリ病棟に入院している患者について一日3単位程度のリハビリは実施したいところですので病棟だけで7～8人程度の稼働が必要となります。

表IV—7—4は、病棟再編後の各病棟の患者数と必要になる看護要員の人数を平成20年10月現在であらわしています。20年度は看護職員の補充が十分でなく6月と下表の10月現在を比較すると看護師が6人、准看護師が1人減少しています。10月現在の看護職員数で計算すると病棟再編案は看護職員が8人不足することがわかりますが、先にご説明した△△病院並みの労働実日数を確保すれば有給休暇の完全取得を前提とした現在の10対1の基準を十分にクリアできるはずです。

表IV—7—4 病棟再編後の看護配置

	稼働病床数	再編後の患者数	必要数			看護配置	病棟種別
			看護師	准看護師	補助者		
第4病棟	52	46.8	17	7		10対1	一般
第5病棟	56	50.4	19	7			一般
第6病棟	56	50.4	19	7			一般
第7病棟	56	53.2	8	10	9	15対1、30対1	回復期リハ
療養病棟	40	38.0	2	6	8	25対1、25対1	療養40
入院合計	260	238.8	65	37	17		
10月現在看護要員数			79	15	24		
差異			14	-22	7		

<以下略>

外来部門については、前述の病棟再編成を受けて一般病床数が200床をきりますので外来診療料から再診料への移行が見込まれます。包括点数ですので具体的な件数までは不明ですが月に5,000千円程度の改善効果はあると考えられます。

$$5,000(\text{千円}) \times 12\text{ヶ月} = \mathbf{60,000\text{千円}}$$

また、〇〇病院の外来については、中期的にみると一部を診療所に分離することが必要だと考えられます。表IV—7—5は7月1日～10日までの外来患者のレセプトを診療科別価格帯別に集計したものです。これによると10日間で実人数4,117人の患者が〇〇病院の外来にかかっています。このうち、1,999円までの患者が1,372人、2,000円～3,999円までが771人、4,000円～5,999円が678人、6,000円～7,999円が382人、8,000円～9,999円が203人、10,000円超が711人となっていました。外来患者のなかで、3,999円までの患者が52.0%を占めていることから、

地域のかかりつけ医的な機能を果たしていることがわかります。

表IV—7—5 外来診療科別価格帯別患者数

単位：人

価格帯	内科	小児科	外科	整形外科	産婦人科	耳鼻咽喉科	眼科	皮膚科	泌尿器科	麻酔科	循環器科	呼吸器科	総計
0～1999	182	79	39	229	37	95	112	312	90	9	148	40	1,372
2000～3999	59	97	8	76	13	36	102	201	141	2	29	7	771
4000～5999	118	117	8	70	14	24	133	97	59	1	29	8	678
6000～7999	131	51	11	55	16	9	42	17	21		28	1	382
8000～9999	39	34	8	32	9	9	8	12	19		29	4	203
10000～	168	32	22	31	34	6	30	21	250		101	16	711
総計	697	410	96	493	123	179	427	660	580	12	364	76	4,117

価格帯	内科	小児科	外科	整形外科	産婦人科	耳鼻咽喉科	眼科	皮膚科	泌尿器科	麻酔科	循環器科	呼吸器科	総計
0～1999	26.1%	19.3%	40.6%	46.5%	30.1%	53.1%	26.2%	47.3%	15.5%	75.0%	40.7%	52.6%	33.3%
2000～3999	8.5%	23.7%	8.3%	15.4%	10.6%	20.1%	23.9%	30.5%	24.3%	16.7%	8.0%	9.2%	18.7%
4000～5999	16.9%	28.5%	8.3%	14.2%	11.4%	13.4%	31.1%	14.7%	10.2%	8.3%	8.0%	10.5%	16.5%
6000～7999	18.8%	12.4%	11.5%	11.2%	13.0%	5.0%	9.8%	2.6%	3.6%	0.0%	7.7%	1.3%	9.3%
8000～9999	5.6%	8.3%	8.3%	6.5%	7.3%	5.0%	1.9%	1.8%	3.3%	0.0%	8.0%	5.3%	4.9%
10000～	24.1%	7.8%	22.9%	6.3%	27.6%	3.4%	7.0%	3.2%	43.1%	0.0%	27.7%	21.1%	17.3%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

今後、入院医療から在宅医療への移行が進むことが想定されますが地域の在宅支援についても〇〇病院の果たす役割が重要であることから内科の一部、耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科などは分離し、在宅も含めた診療体制をとることがもとめられます。

仮に半分の患者が診療所の患者と考えると

再診料 110(円)×6,870(人)×12(ヶ月)=9,068千円

仮にそのうち30%の患者が特定疾患療養管理料※1の対象とすると

2,250(円)×2,061(人)×12(ヶ月)=55,647千円

100人の在宅患者(在宅時医学総合管理料)の診療

100(人)×38,000(円)×12(ヶ月)=**45,600千円**